

令和7年度白岳中学校区研究推進計画

校番 (3) (白岳中) 学校

校長名 大島 美紀

1 中学校区教育目標

夢や目標に向かって 粘り強く頑張る児童生徒を育てる
 —夢や目標への自律的挑戦—

2 目指す児童生徒像

- ・ しっかり話を聞き、相手や目的を明確にして、自分の考えを表現する児童生徒
- ・ 他者とのかかわり合いを通して、自分や他者のよいところを見つめ、問題を解決したり考えを深めたりする児童生徒
- ・ 心と体の健康に必要なことを考え、実践できる児童生徒
- ・ 将来の「なりたい自分」をイメージし、そのための手立てを考え、実行できる児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力	学びに向かう力, 人間性
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
後期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、あらゆる場面で活用できる。	他者と協働して考えを深め、分かりやすく自分の考えを表現することができる。	よりよい社会を実現するために、身近な集団と協働しながら、積極的に行動することができる。
中期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、学校生活や日常生活で活用できる。	多様な考えを認め、相手に応じて伝え方を工夫することができる。	縦のつながりや横のつながりの中で、物事を多角的に捉え、自己の生活に生かすことができる。
前期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、学校生活や日常生活につなげることができる。	自分の考えをもち、様々な表現方法でまとめたり伝えたりすることができる。	友達や家族、地域の人たちとかかわり、様々な思いや考え方に気づき、自己の力を伸ばすことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び、考えを深め合う児童生徒の育成
 ～教師のファシリテーションがつなぐ「学び合い」を充実させた授業を目指して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度、研究主題を「主体的に学び、考えを深め合う児童生徒の育成～「学び合い」を充実させた授業づくりを通して～」と設定し、「学び合い」を中心に研修を深め、単元構成や問いの設定について検討を重ねながら授業づくりに取り組んだ。その結果、2学期に行った児童生徒アンケートの「授業の内容が理解できる」（中学校）「授業の内容が分かる」（小学校）の項目において、年度は小中ともに肯定的回答割合が小学校で93%、中学校で95%であり一定の成果が得られた。

一方、広島県児童生徒学習意識等調査の結果からは「学習を最後までやりとげてうれしかったことがある」（小学校対県比-2.5%）ことに課題が見られた。一方中学校では「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表をしている。」（中学

校対県比+5.3%)で県平均を上回っているが、「授業では、自分の考えを積極的に伝えている」(中学校対県比-10.2%)ことに課題が見られた。これらのことから、互いの良さを認め合え、良好な人間関係に支えられた中で自分の考えを深めたり広げたりして、問題解決の喜びを味わわせることや伝える喜びが必要であるといえる。

令和6年度の全国学力・学習状況調査の結果では、小学校の平均正答率は、国語科では対全国比12.3ポイント、算数科では7.6ポイント上回っている。国語科ではすべての設問において全国を下回るものはなかったものの、算数科では「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること」に課題が見られる。これらのことから、思考・判断力を高め、それらを的確に説明する力を伸ばす必要があることが分かった。中学校では、平均正答率が国語科では対全国比0.9ポイント、数学科では3.5ポイントを上回っている。その中で、国語科では「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる」に課題が見られ、数学科では、「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができる」、「筋道を立てて考え、証明することができる」に課題が見られた。各教科の課題も全教科で共有して学校全体の課題として捉え、改善に向けての方策を9年間の見通しをもって練るとともに、それぞれの教科で身に付けた資質・能力を、学習や生活の様々な場面で積極的に生かす態度を育成する取組を継続していくことが必要であるといえる。

これらの実態をふまえ、今年度も、昨年度と同じく授業改善と学習観の改善を進める「学力向上部」と、学習の基盤となる「人間関係づくり」や「健康づくり」を進める「生活向上部」の2つの部会を引き続き設定した。主体的な学び、深い学びを軸に、各部会ともに、3つの資質・能力を活用し身に付けさせながら、課題を設定し、自らの考えを深め合う児童・生徒を育成したいと考え、研究テーマを設定した。

(3) 研究仮説

「つけたい資質・能力」を意識し、教師が良きファシリテーターとなり、個の学びを土台とした「学び合いを大切にした授業」を充実させていけば、主体的に学び、考えを深め合う児童・生徒を育てることができるであろう。

5 研究内容

ア 教師が付けたい力と評価方法を明確にする取組

- ・ 教師が、単元を構想し、育成したい資質・能力を設定する。
- ・ 本時のゴールで目指す児童生徒の姿や、どこでどのように評価するかを具体化する。

イ 課題設定の充実を図る取組

- ・ 本時のめあてに必然性を感じ、興味をもって学べるよう、学習課題や場の設定を工夫する。
- ・ 児童生徒に、本時の授業のゴールをイメージさせ、児童生徒が主体的に学びを進められるよう教師がファシリテートする。

ウ 「学び合い」の充実を図る取組

- ・ 一人でじっくり考える場(自力解決)、自分の考えを伝える、友達の意見と比べる、自分の考えを広げたり深めたりする場(集団解決)を設定する。
- ・ 問いや切り返し発問を足掛かりとして、他者とかかわりながら課題解決に向かう場面を工夫する。
- ・ ICTを効果的に活用する。
- ・ 授業参観シートの活用

エ 「振り返り」の充実を図る取組

- ・ 「大切」「振り返り」を確実に行う。
- ・ 「振り返り」の視点や振り返りの内容を共有する。
- ・ キュビナを活用し、個に応じた基礎学力や応用力の定着を図る。

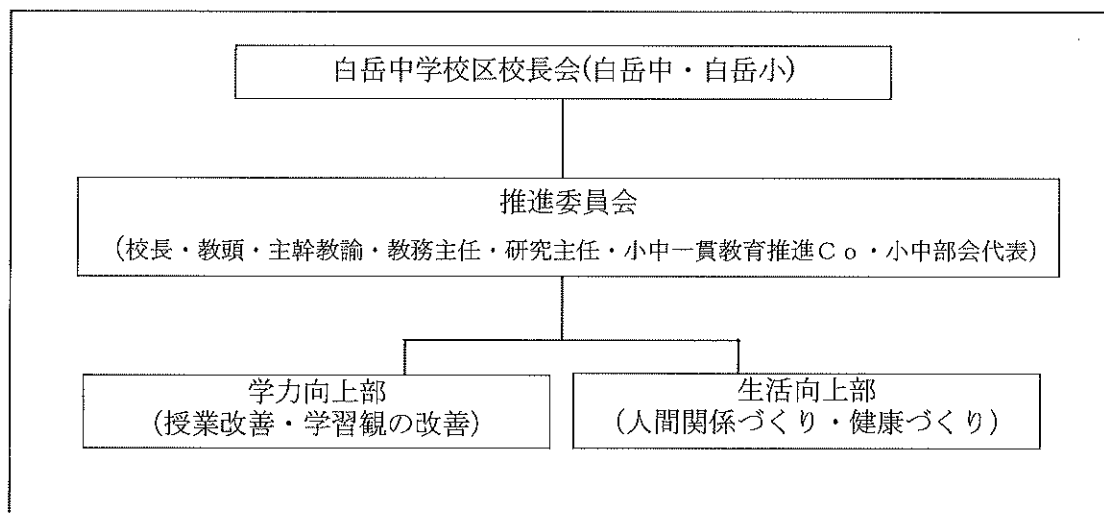
6 その他

- ・ 小中一貫だよりを発行する(年3回)

7 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 授業がよく分かると児童・生徒が実感できたか。	児童・生徒アンケート	児童・生徒の肯定的評価	小 94.5% 中 95.0%	90%
② 学び合いを大切にした授業を創造することができたか。	授業評価表	研究授業における教職員の相互評価値（4段階評価）	小 3.7 中 2.5	3.2以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価（4段階評価）	小 3.6 中 3.1	3.2以上
③ 児童・生徒の学力が定着したか。	国語科における、2学期実施テスト	国語科「思考・判断・表現」の通過率	小 87.8% 中 70.3%	小 80% 中 70%
	算数・数学科における、2学期実施テスト	算数科「知識・技能」の通過率 「思考・判断・表現」の通過率	小 86.6% 中 84.8% 小 81.5% 中 63.5%	小 80% 中 70% 小 80% 中 70%

8 推進体制等



9 推進計画

月 日	内容	
	白岳中	白岳小
5月 1日 (木)	第1回推進委員会	
6月 6日 (金)	第1回全体協議会 (中1授業参観)	
8月 7日 (木)	第2回推進委員会 (小中合同での教材研究や指導案検討)	
8月25日 (月)	第2回全体協議会	
(2学期 未定)	授業研究 (小・中)	
11月6日 (木)	白岳中オープンスクール	
12月3日 (水)	広地区クリーンキャンペーン	
1月19日 (月)	第3回推進委員会	
2月9日 (月)	第3回全体協議会 (小6授業参観)	

10 その他

※ 研究構想図、カリキュラムマップを添付する。